

第2回江田島市学校規模適正化検討委員会 議事録

1 日 時 令和7年10月8日（水）18時15分～20時30分

2 場 所 能美市民センター2階 会議室

3 議 事

- (1) 開会挨拶
- (2) 学校規模適正化検討委員会 学校視察報告
- (3) 保護者アンケートの実施内容について
- (4) 保護者アンケートの添付資料について
- (5) その他
- (6) 今後のスケジュールについて
- (7) 閉会挨拶

4 要 約

江田島市学校規模適正化検討委員会の第2回会議では、少子化による児童生徒数の減少を背景に、学校統廃合や今後の学校の在り方について議論が行われました。以下、主要な内容は次のとおりです。

****委員会の目的と背景****

江田島市では過去に学校統合を進めてきたが、少子化の進展により学校運営が厳しい状況にある。

今後の学校の在り方やその実現に向けた方策を検討するため、委員会が設置された。

****学校視察報告****

委員が市内の小中学校を視察し、各学校の特色や課題を確認。

地域との連携や防災拠点としての学校の役割が評価される一方、少人数学級や複式学級の運営の難しさが指摘された。

****アンケート案の検討****

保護者を対象にしたアンケートの内容について議論。

学校規模適正化に関する理解を深めるため、わかりやすい表現や説明資料の充実が求められた。

回答項目の数や内容について、簡潔で回答しやすい形式にする意見が出された。

****説明会の必要性****

アンケート実施前に保護者への説明会を開催し、現状や課題を共有する重要性が確認された。

****子供の意見の収集****

子供たちの意見を聞く機会を設ける提案があり、児童会や生徒会を通じた意見収集が検討された。

5 内 容

事務局

皆様、本日は御多忙の中、「第2回江田島市学校規模適正化検討委員会」に御出席いただき、誠にありがとうございます。

この委員会の委員名簿や議事録等につきましては、HP等で公開する予定としておりますので、御了承ください。

合わせて、議事録作成のため、録音や写真撮影についても御了承いただければと思います。

では次第に沿って進めさせていただきます。

1 開会です。

それではまず初めに検討委員会 委員長より開会の御挨拶をお願いいたします。

委員長

この委員会に先立つ、何時のどの時間にやるのか、平日なのか休日なのか、御家族もいたり、お仕事もある中で全員が揃うというのはなかなか難しいんだろうと思います。

本日は都合をつけてお集まりいただき、ありがとうございます。

この委員会が何を検討すべきものなのかっていうのを、1回目に諮問をいただきました。

改めてちょっと私の方で読み上げさせていただきますので、共通理解を作らせていただけたらと思います。

諮問書、本市では学校教育の充実と活性化のため、江田島市学校統合検討委員会を設置し、江田島市長からの二度の諮問に基づき、平成17年に第1次答申、平成21年に第2次答申を経て、学校統合を進めてまいりました。

しかし第1次答申から16年余りが経過し、少子化の進展による児童生徒数の減少により、学校を取り巻く状況は厳しさを増しています。

そのため、市内小中学校の統合を前提とした検討のみならず、本市における今後の学校のあり方について検討する必要があることから、新たに江田島市学校規模適正化検討委員会を設置いたしました。

つきましては江田島市学校規模適正化検討委員会設置要綱第2条に基づき本市における今後の学校のあり方やその実現に向けた方策等について、貴会の御意見を伺います。

では、第2条に何が書いているのかというのを読ませていただきます。

委員会は次に挙げる事項について所掌する。

- 1 今後を見据えた江田島市の学校のあり方の検討
 - 2 その他、前条の目的を達成するために必要な事項
- というふうに書かれております。

まず、第一には少子化を迎えるに当たって、統廃合をどう進めていくかということだと思うんですが、ただ、どう統廃合するかだけではなくて、その根拠になるもの、その根拠ってというのが、地域的な問題もあるのかもしれませんが、私の専門は教育学で、どうその学校が特色を生かしていくのか、それは ICT を使うということもあると思います。地域的な文化継承の特色ってということもあると思います。日本全国の様々な統廃合を一生懸命した自治体、教育委員会さんの取組というものがありますので、そういうものも参考にしながら、江田島市ならではの統廃合といいますか、新しい学校の在り方をここで一緒に考えることができたというふうに思っております。

準備をしてくださっている教育委員会の皆様、本当大変な資料作りかと思いますが、それに応えられるように、私達で一生懸命考えられたらと思います。最後にもう一つ必要なのが、ここでの議論をどう住民の方、保護者の方に伝えていって、共通理解を作っていって、江田島市全体の学校の方向性というもの、あるいは教育の方向性というものを、ここが提案していけるようになったら、それは素晴らしい試みだったというふうに皆さんに理解していただけるんじゃないかなと思います。

ちょっと長くなりましたが、私個人が考えるものも含めて、御挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いします。

事務局

ありがとうございました。

それでは、まず本日の配付資料の確認をさせていただきます。

順に読み上げますので不足がありましたら挙手をお願いいたします。

- ・ 本日の検討委員会次第
- ・ 配付資料①「学校規模適正化検討委員会 学校視察報告」
- ・ 配付資料②「保護者アンケート案」
- ・ 配付資料③「保護者アンケートの添付資料」
- ・ 配付資料④「推計資料」

(資料確認終了)

事務局

では本日の出席者は15名です。定足数に達しておりますので設置要綱第6条第2項の規定によりまして会議の方を開催いたします。

なお、高田委員、黒川委員から欠席の連絡、桂委員から遅れる旨の

連絡があったことを御報告します。

ではここからは委員長に議事の進行をお願いしたいと思います。
よろしくお願いいたします

委員長

それでは、2の議事に入らせていただきます。

(1) 学校規模適正化検討委員会 学校視察報告についてです。
事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは資料の「学校規模適正化検討委員会 学校視察報告」を御覧ください。

去る9月22日から9月30日にかけて、委員の方のうち、参加可能な方に、市内小中学校の視察を行っていただきました。

視察した学校及び参加された委員については、表のとおりです。
各学校を訪問した際の様子について、資料を添付しております。
報告については以上です。

委員長

それでは、視察された委員の方々から、各学校を視察された感想等、御報告いただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員A

私から御報告します。

市外に住んでいる人間として、都合調整しまして、この度3校を訪問させていただきました。

非常に地域に根づいた学校教育を展開されていて、国が求める社会に開かれた教育課程というのを体現している学校だなと3校を見て思った次第です。

加えて感じたこととしましては、子供たちの姿もちろんそうですが、学校という施設・設備が地域の防災拠点にもなりうるっていうのを、いろいろ考えたところです。

能登の地震であったり、東日本大震災のときもそうですが、震災とか津波とかあったときに、地域の避難所であったり、そういった地域コミュニティの核となるのが学校という空間なんだろうなっていうのを、訪問して思いました。

以上です。

委員B

私は母校の大柿中学校、息子が通っている中町小学校、三高は今回初めて行かせていただいたんですけども、大柿中学校と中町小学校は行ったこともあるし、そんなに大きなこの衝撃っていうのはないんですけど、三高に関しては、単純に考えればなくなることなのかなとは

すごく思ってたんですけど、いざ行ってみると、三高ならではの、その少人数での活動だったりだとか、地域との連携っていうので、ここをどうしていくのかっていうのが、すごく難しい問題だなと思いながら、かつ、交流定住促進協議会から出てるということもあるんで、地域全体がですね、こどもたちを増やすとか、外に出ていかないっていう活動をしていかない限りはなかなか、今人口が減ってる中で、各エリア取り合いになってるところをするには江田島らしい教育っていうことを地域ぐるみでやっていく必要があるんじゃないのかなというふうに感じました。

副委員長

29日では能美中学校、大古小学校、鹿川小学校へ行かせていただきました。

三つの学校ともですね、こどもたちは本当に生き生きとよく頑張っていて、落ち着いてですね、授業を受けている様子がありました。特に小学校に関しましては本当に地域とのですね関わりの方が強いなと思ひまして、地域と上手く関わりながら学校経営といいますか、子供たちを

活躍させているという姿が見れたのはよかったと思います。

この三つの学校に関しては校舎等もですね、新しいといいますか、良い環境の中での、この子供たちの勉強と言ひますか、環境だなと思ひました。それぞれの学校の特徴と言ひますか、割と広いスペースの中でゆったりと子供たちがのびのびと活動しているという状況があつて良かったと思います。

まあ、鹿川小学校に関しては、これからですね、どんどん生徒数が減っていくというところはすごく懸念されているというところが少し気になりました。

簡単ですが、以上です

委員C

私も22日月曜日に参加させていただいたんですが、もう一点ちょっと補足で、特に江田島中学校で感じたことです。

この中学校が、その生徒数に応じて先生の数が割り当てられないということで、そこでもう本当に1学年1クラスが35人以上のクラスを、教師1人で受け持っているその大変さっていうふうなのが、今回その現場を見させていただいて非常に感じました。

ここのところは今回の説明、このアンケートにも入ってると思うんですが、これが実際やっぱ見るとですね、先生のその負担っていうものがどれだけ大きいかということは学校視察に行かさせてもらつて、現場を見てよく分かりました。やっぱ現場は見るもんだなつて

いうふうに切に感じました。

以上です。

委員長

はい、私も三つの学校に行かせていただいて、それぞれ特徴や、自慢の特色っていうものがあるって、非常に勉強させていただいてきました。私の場合、行ってみないってところ、特に私自身は江田島に住んでいないものですから、何とか1日でもということで、25日訪問させていただいて、本当に良い経験をさせていただきました。ありがとうございました。

委員長

訪問された方で、だったらこれもぜひ共有したいということとか、逆に訪問されなかった学校について聞いてみたいということ等があればお願いします。

委員C

ちょっとすいません。

9月29日に私も参加させていただくはずだったんですが、今回大柿中学校のPTA会長の須山会長に代理で参加させていただいて、今日そのときですね、御意見をちょっと伺っているんで、一応そちらの方の意見もこの場をお借りして報告させてもらおうと思います。

須山会長がやはり言われてるのは、鹿川小学校で感じるところに関しては、やはり人数がどんどん少なくなっていると、そして、今沖美の方からも鹿川小学校に児童が通っているのと同時に、中町小学校の方にも、沖美の方から通ってる方がおられるんですね。そうした中でこの鹿川小学校っていうのが、やっぱりちょっとどんどん人数が少なくなっているんだけど、やっぱりそこで感じるところとしては、その学校が地域に通じてアイデンティティ、その学校がやっぱりしっかりその地元に根付いて、学校として、その誇りを持って活動している。そして教育現場としてしっかりみんな生き生きとそこで働いているという姿を見させてもらいました。

そして、またその校舎の新しさ、プールもついてるし非常に良い校舎で、こうしたふうな校舎っていうのはなかなか今の民間でもね、やっぱりなかなか作ることができない、校舎をやっぱり大事にしていきたいなっていうことを感じたっていうことを、今日言っておりました。

そのことを報告させていただきます。

委員長

それでは、続きまして、(2) 保護者アンケートの実施内容についてです。

事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、資料を御覧ください。

学校規模適正化検討委員会として、今後の検討の参考とするために、小中学校の保護者及び未就学児の保護者を対象に行うアンケート案を作成しました。

事前に配付させていただいていたところですが、既に内容等について御意見をくださった委員もおられましたので、本日は、いただいた意見を資料の右側に追記したものを配付させていただいております。

この内容について御検討いただければと思います。

委員長

説明が終わりましたが、アンケートの内容について検討を行いたいと思います。

最初の挨拶文から順に検討していきたいと思います。

御意見ありましたらお願いいたします。

委員長

この改案に沿って変えられているものですか。

事務局

そうです、今ですね元々この左側に示しているのがお配りしたアンケートそのものです。それに対して右側にある吹き出しで書いているものが事前に委員の方々の中から御意見いただいたものは記載しております。

うちの案としましては、例えば一番最初の学校規模適正化という言葉は保護者に伝わりにくいのでわかりやすい文章にした方が良いと御助言をいただきましたので、もう少し、例えば、江田島市の今後の学校の在り方に関するアンケートというように、難しいようなことは注釈等を付け加えながらできたらというふうに思っております。

できましたら順に1問1問見ていただきながら、御意見を更にいただければありがたいと思います。

委員長

質問なんです、御意見いただいた学校規模適正化は保護者に伝わりにくいということで、皆様への中の説明文はわかりやすく書いていただいたと思うんですが、このアンケート（案）という、一番上のゴシックのところは、これはアンケートの最初にこの言葉がつくんですか。それとも学校規模適正化に関わる保護者アンケート案とあって、合意が得られれば案という字だけが消えるんですか。

事務局

そこに関しては、あくまでまだ題名ははっきり付けてはいないです。

委員長

一通り中身を見た後、アンケートの名称について適切なものを考え

えるということですね。

事務局 はい。

委員長 では、1 ページ目はよろしいですか。

(委員賛同)

委員長 続いて、2 ページ目に移ります。
第1部、回答者基本情報で特に御意見はいただいておりますが、いかがでしょうか。

副委員長 細かいことかもしれないんですが、4番と5番に関してなんですが、現在一番学年が下のお子様が在籍している学校名をお選びくださいというところで、選択が小中学校しかないが、この4月に入学するこども園の保護者にも実施するということですか。

事務局 こども園に行かれている保護者の方にも実施します。

副委員長 ということであれば、この4番、5番のところにこども園の欄がないとチェックする欄がないということになります。

事務局 そうですね、言われたとおりですので、例えば4と5に関しては、こども園と通っていないというような項目を付けて、さらに一番下のお子様の学年のところをこども園の名称とか年中とか未満児とかっていう形で示させてもらえたらいけるかなと思うんですけどどうでしょうか。

副委員長 良いと思います。

委員D 1番の性別をお選びくださいというところについて、なくてもいいのかなと思います。

あと、在住歴のところは入れている意味はなんですか。

事務局 一番の性別に関しては確かに今の言うておられるように今の時代というかそういうのを反映したときに、特に回答する必要もないかなというふうに思いますので、また委員の方々が見ていただいて、ここは必要ないのであれば、取らせていただけたらと思います。

3番の江田島市の在住歴というところに関しましては、事務局の意図としましては、元々江田島にずっと長くおられる方なのか、それとも本当に最近江田島に来られた方なのかによって、立場に違いがあつて考えも変わることがあるのかなと思いましたが、そういった項目を挙げさせてはいただいておりますが、どうでしょうか。

委員D

そういった意図があるのであればいいです。

アンケートって疲れますよね、絞った方が回答される方も回答していただきやすいかなと思いました。

事務局

そうですね、その辺りは確かに学校の在り方に関して直接的に関係がある項目ではないかもしれませんが、委員の方々でここは知らないよねということであれば、とらせていただきますが。

委員C

これ全部やると15分から20分くらい。

委員D

お母さん方もお忙しいと思いますし、回答率が下がったりするかもですし、内容は検討していただいたらいいのかなと思いますけど。

委員E

保護者に配付しますよね、これは1軒に1部ですか。

事務局

事務局としましては、今回はデジタルでこれを集計させていただきたいと思っていますので、読み取っていただくような形で回答していただけたらと考えています。

委員C

多分QRコードを読み取って、そこからそうですね。

事務局

そうですね、そういう形にしたいなと。

委員F

QRコードで読み取って、操作しながらやると、いつまで問題が続くのかわからない。やっぱり紙も配付、紙のアンケートも、ただ回答はスマホでお願いしますというふうな形であると、全体像が見えないと、アンケートに答える方が、どんな感じのことが聞かれるんだろうぐらいはわかった方が回答しやすいのかなという意見がうちの地域の中学校校長会でもありました。

委員G

最近のデジタルアンケートは、冒頭にですね、このアンケートに答えるなら大体約50分かかりますとか大体の時間が載っていること

が多いので、それを入れたらいいかなというふうに思いました。

で、3番の質問の在住歴については、たしかに系統の違いは出そう
です。ここは減らさなくてもいいかなと私は思いました。

委員長

男女なんですけれども、確かにアンケートを取るときに、保護者である場合に父親なのか母親なのかというぐらいの意義である場合もあると思いますし、回答しない欄もつけるべきっていう考えもあるかと思うんですが、お父さんの答えをお母さん2人で夫婦で一緒に考えようって言ったら、男女もいれられなくなるかなということもあるかなと、1人であれば男か女か、答えたくないかでいけると思うんですが、夫婦で一緒にどれかねと言いながら回答しようと思うと、この1番は答えようがない、全部チェックができるならいいんですけど、マルチで選べるならいいと思うんですが、それで複雑になるようであれば、男女っていうのは、回答しやすさ観点からなくてもいいのかなというふうに思います。

データ上やはり母親の傾向とか父親の傾向が出るかもしれないので、悪いものではないと思うんですがどう思われますか。

なくてもいいものだと思うのか、データ上取った方がいいと思われるか。

委員H

データとして欲しいのであれば、回答する人が、男女じゃなくて母の立場とか家族、夫婦なのか、おじいちゃんおばあちゃんが回答する人もいると思うので、そういう選択肢を増やすという。

委員長

母親、父親、その他。

委員H

その他でカッコというか任意の入力欄があれば。

委員長

今の御提案で、母親、父親、その他でもし可能であれば自由記述で。

事務局

はい。

委員長

特にこれ以上このページ問題がなければ、次の6にいきたいと思います。

(委員賛同)

委員F

それでは6以降のところで、第2部のところ、江田島市の教育に関

する御意見のところは、私の方で出してもらったところがあると思うんですけど、1番のところで、追加質問として、①どういう点が満足か、②どういう点が不満足かを聞いてはどうか。

ただ、何かを打ち込むとなるとすごく大変なので、なくてもいいかもしれないんですけど、そういう視点ですね、そういった視点があるといいかと思います。

あと、2の縦2のところが、参考資料2ページの内容に関する説明が不十分であるため、アンケート第2部は実施しても有効な回答が得られない可能性があるので詳細説明の資料はつけられないかというところがあったんですが、「知・徳・体」であるとか、難しい言葉が、たくさん出てくるのではないかなと、保護者にとって、そういうところを細かく説明を入れて質問するのか、ただ、適正化に関してのところという質問であれば、また多くなりすぎると回答しにくいこともあるので、減らすべきところは、ここは減らしても良いのではないかな。

委員長

江田島市の教育を保護者の皆様がどのように受け止められていらっしゃるかっていうことは、このアンケートからわかることなので、意味があると思うんですけども、適正化に限定して少しでも設問を減らして回答しやすくするっていうことを考えれば、この縦2ですか、全部なくてもいいかどうか。

委員F

縦2全部というよりは、江田島市独自の魅力的で特色ある教育の展開が重要だとかそういったものをいくつかしても良いのかなという意見ではありましたが、皆さんの御意見を伺いたい。

事務局

事務局としてちょっと補足させていただきますが、これがお手元にお配りしております、この後検討いただく江田島市の学校の状況についてというような補足資料の2ページ目、それから3ページ目、4ページあたりと連動しているというか、こちらに書いてある、江田島市の教育委員会の基本理念の内容をそのまま載させていただきました。さらにこれに対して、説明が不十分というか詳細説明がつけられないかという御意見もいただきましたが、これに関しては今日、アンケート用紙の一番後ろですね、補足資料としてつけさせていただいておりますけど、これらの項目について更に、教育委員会として詳しく説明をさせていただくとすると、こういった内容をつけることにはなるんですけども、先ほど言っていたように、そのアンケートに回答するお時間だとか、見ていただく資料というのがまた増えているところもありますので、どうしていくかというところをまた御検討いただ

けたらというふうに思います。

委員長

議論が進みやすくなるように、ちょっと私の方で方向性を付けさせていただきます。

御意見いただいているものを見ていただきますと、1から14まで全部上げるのは多いからというもので、1、2、5、9、11、13、14は削る案、一方改案の方で1と14は残したいということがございます。

まず、御意見いただいたこれらを消して絞っていくということについて、まず絞っていくということについてはまあまあ合意いただけるかなと思うんですが、どれを削るかどれを残すかっていうところで、一度揉んでいただけたらと思います。

提案の通り残すべきものとしてあるものは残すでいいかどうか、あと改案として1と14は残したいということなので、残していいかどうかということ御意見いただけたらと思います。

③、④、⑥、⑦、⑧、⑩、⑫、確かに⑧の学校と地域・家庭のパートナーシップであるとか、⑩の部活動の地域展開ですとか、統廃合に係る重要な御意見になりうるかと思います。

委員G

これに関しては、先生方が聞きたいことを聞けばいいかなと思いましたが、おまかせしたいと思います。

委員I

私としては、これ全て14、聞いた方がいいなと思っています。

なぜかという自分自身、教育委員会からの方針をもとに、やっぱり全て網羅的にやっていくっていうところがありますので教育現場で、回答するのはどれか一個選択すれば良いので、割とスムーズに回答ができるのではないかなというふうに思いますので、やった方がいいかなというふうに思っています。

それと別の部分なんですけど、江田島市の学校教育に満足していますかっていうところで、記述をしていただいたとして、それを活用されるかどうかという部分で、割と記述となると面倒くさく感じるんですよねアンケート、スマホでやったとしても文章どうかなって考えたりしながらやるのは少し面倒な部分だったので、全体的にこの四つでいくとどうなのかっていうのを短答式でこういうふうに聞いていくのはありで、記述はいらないのではないかなというふうに思います。その後どのように活用されるかがポイントかなと思います。

委員長

はい、いかがでしょうか、全て聞いた方が良く、それは先生方がこ

の方針に基づいて学校で授業も含め学校、教育活動を考えていらっしゃるのですのでそれぞれどういうふうに理解されているのかっていうところは知りたい。

委員D これ14問あるので多いっていう意見ですけど、例えば今の選択で
きる項目を三つに絞ったら、もう回答する人が答えやすいとかっていう
のはないですか。

「非常に重要」と「重要」って必要なのかなって、「重要」でいいん
じゃないかなとか、選びやすさでも、それぞれチェック入れてもらい
やすくはならないですかね。

委員長 「重要」と「重要でない」とよくわからない。

委員D とかまあ、3つに絞る、5つをとるほうがいいんですかね。

委員C 私もね、いつもアンケートするときに「非常に重要」と「重要」、で
真ん中があって、次にまたあって、これっていうのは何か意味あるの
かなっていつも思ってるんですけど、「重要」とその真ん中で何かあ
ったとして「重要じゃない」、で、「よくわからない」ぐらいでいいん
じゃないかなってたまに思うときあるんですけど、これはどうなん
ですか。

事務局 「非常に重要」と「重要」は肯定的。「あまり重要でない」と「重要
ではない」は否定的ということになります。

委員I 子供のアンケートなんかでやっぱり4つでいくんです。それはなぜ
かという、人は真ん中を選びやすいというふうに言われています。
教育研究でもそうなんですけど、割と四つで聞いていくとある程度
わかるので。
この「よくわからない」っていうのは本当にわからない人のための
設問なので。

委員C 上二つと下二つで一番最後によくわからないと。

委員I 4つ聞いて、一つは「よくわからない」で入れてくださってるっ
ていうイメージですが。

委員F あと四つの観点でいうと、「非常に重要」と「重要」と、「あまり重
要ではない」、「重要ではない」、これをちゃんと区別しようと思った

らまず最初が「重要」、「どちらかというと重要」、「どちらかという
と重要ではない」、「重要ではない」、これがきちっとした部分になるの
で、非常にを使うのであれば「非常に重要ではない」というのが下にな
るのかなと、どちらかというのですね、バランスで言えば、ちょっと
それは感じました。

委員長 聞く項目、①から⑭、何かを残すのか、全て聞くのかというところ
と各項目の選択肢の数、それから表現、御意見いただきました。

委員G これ必須回答と任意回答っていうのを、何かコメントとかを書いて
やりますか。

例えば、2部は全部必須回答で、3のその他の自由記述のところは
任意回答で、ここに回答しなくて空欄でもアンケートは終了できるよ
うにという形ですよ。ちょっとそこを何かコメントをつけてからや
ったらいいかなというふうに思います。

委員長 3ページ目だけではなくて、4ページ、5ページも一緒に。

委員J 第2部って多分、学校の配置の適正化とそんなに関係があるかと言
うと関係ない部分で、どっちかという教育委員会さんが、この際聞
いてみてもいいかなっていう項目ですよ。

委員B 僕もその順番を学校規模適正化検討委員会で聞きたいものが3
部なんじゃないかなっていうところがあって、この2部って結構デー
タとしてはいいんだろうけど、全体の間としてはタイミングがある
のかなと思うのと、多分これ14個が10個になっても、私個人の答
える労力とすれば、あまり変わらないっていう感覚がある。何か説明
しないとわかんない項目が入っていると、これもまた読んで、保護者の
人たちが見るかっていうと、どうかなっていうのがあるんですけど、
でも、そこにじゃあ答えないと駄目ですよっていう意識付けがあると
すれば、説明を読まずによくわからないに回答するような人もいっぱ
いいるかもしれない。

事務局 確かに第2部のところに関しては、今回のこの学校の規模適正って
いうところに関して直接的にっていうわけではない部分もあります。

こちらの資料もそうなんですけども、教育委員会としましては私達
が今やっていることっていうことに、2ページ目、3ページ目、4ペ
ージ目を割いて説明をさせていただいて、知っていただきたいという

思いもあって、載せております。ただし、本当に本筋として児童数の減少とかがっているのは、この5ページ目からというふうになっております。

ここからもうストレートに入っていくという資料作りもできるかなというふうに思います。

とはいえ学校、教育委員会は今どういったことに取り組んでいるのかということを知っていただく良い機会でもあると思ってこれは掲載しておりますので、委員の方々に見ていただいて、いやそこは要らないんじゃないかなというふうなことであれば、ここは割愛させていただくこともできるかなというふうには思っております。

委員長

はい、では第2部についてはちょっとエンディングにさせていただいて、第3部を見て、これだけ答えるのなら第2部はいらないとか、むしろ第2部の内容と第3部の内容を見比べたら第2部があったほうが良いとかいう判断を第3部を検討してもらった上で、判断したいと思います。

委員C

ちなみにこのアンケートはどのぐらいの時期に行うとかがっているのは決まっているんですか。

事務局

いや、決まってはいたのですが、やはりこの検討委員会で次やっぱり結果を見ていただかないといけませんから、次は学校視察にしておりますけども、その次の第4回に間に合うようにはしたいので、この10月、決まり次第、10月の半ばから11月の半ばぐらいにかけては、取らせていただいて、うちの方でまた集約して、また委員の方々に御提示できるようにしたい。

委員A

おそらく教育委員会さんの説明のとおり、第2部の江田島市全体の学校教育に関する保護者の意見というのは、これって聴取する機会あんまりないと思うのでぜひ聞いてもいいのかなと思うのと、わざわざ保護者は適正規模に関するアンケートなんでしょっていうのを理解した上で、回答していますので、前置きとして第2部の後、本題に行くよりはもう第3部と第2部の順番を入れ替えてもいいのかなというお話を伺って思いました。

あと2点確認なんですけれども、参考資料はカラー刷りで全ての世帯に配られるという理解でよろしいですか。

事務局

はいそのつもりでおります。

委員A もう一つが、第2部の前の方なんですけど、第1部の6ですかね、このページのお子様の普段の通学手段というのは、4、5では一番下のお子さんの学年を選ぶよう聞いている中で、6というのは複数のお子さんがいた場合、回答が複数にブレるかなと思うんです。

委員長 二つ以上組み合わせの場合はそれぞれあります。
お子さんで異なる場合も全部選ぶって言うので。

事務局 すいません、それも一番下の学年のお子様を基準に書いていただけたらというふうに思っています。

委員G これ一番下のこどもの学年とかで聞いているのは、一番影響を受けそうだからという理解でいいですか。

事務局 はい、事務局としましては、一番今後江田島市の学校に長く通われるお子さんを基準に、このアンケートを見ていただきたいという思いがありましたので、複数おられる場合は一番下の方を基準にアンケートを答えていただきたい。

やはり、複数にしてしまうとかなり難しくなってくるので、そこを基準として捉えていただきたい。

6番に関しても、一番下のお子さんが今どのようなやり方をされているかというところで見ていただきたい。

委員長 現在一番学年が下のという言葉を入れて生かすということで。

委員G 第2部と第3部の順番についてなんですけど、第2部で学校の活動のことを知っていただきたいんだなということは読み取れました。

第2部を先に持ってきていることについて、深読みなんですけども、知っていただいて、これからアンケートに答える方に、学校ってだいじなんだなと受け皿を作ってから第3部を答えてもらおうとしているのかなと、心理的ギミックを使ってるのかなと、そういう意図があってではないんですかね。

事務局 そういっていただけるとすごくあれですが、いきなりこう何ですかね、ストレートの入っていきすぎて、インパクトというより、まずは江田島市の学校をどう思われていますかというような、ワンクッショ

ン置きたいという思いは一応あったんです。

でも、言っているように、本当に本筋としては第3部なので、どういう構成の方が良いのかというのは御意見いただけたらと思います。

委員C 第2部ってそこまで難しい質問ではないんですよこれ、チェックすれば良い。

委員G はい、サクサク回答する人もいそうかなと思ってしまいました。
ただ、ちょっと、あまりにもこの説明がなさすぎて、ここの文章が、詳細の方を見ても同じことしか書いてないんで、ちょっとわからんかなと思って、意見を述べさせていただきましたけど、説明はちょっと内容不十分なのかなと思います。

すいません、多分真面目に答えてくださる方は、このアンケートをこの冊子を見ながら答えてくれると思うので、この冊子の順番でアンケートが構成されていた方が優しいんじゃないかなと思ったんですけれども、冊子だったら学校の説明の後に人数の減少になってるんですけれども。

委員C 大体これ設問に合わせて作っておられるんでしょ。

事務局 そうですね、現状を知っていただいてという流れで。

委員G 意識されているんだったら大丈夫です。

事務局 この資料に沿って、このアンケートを構成するのであれば、例えば第3部のところで5、6ページの内容についてもストレートに御意見伺うような、この児童の推移についてどういうふうに思われますかとか、変な話、危機感を持っているとか、しかたないと思っているというような選択肢を作る、そういう形で御自身の通われている学校の児童生徒数に関してはどう考えておられますかという選択肢を作ることできますが。

それをして、第3部のここに書いてある人数の少ない学校についてというところにいけば、たしかに9ページあたりと連動するような形にはなりますが。

委員長 回答にあたって何ページを御覧くださいっていうふうにして、回答していただくように。

事務局 そういうふうにもっとわかるように、そういう御意見いただきましたので、していきたいと思います。

委員長 今検討してる①から⑭が、補足資料の方で説明してくださっていて、2 ページの小中学校教育の充実を見てます。

委員から御指摘がありましたけれども、この資料を見ても何の役にも立たないという感じがある一方、補足資料は、きっちり説明してくださってるので、例えば、この第2部の縦2の回答については補足資料を御覧くださいというふうにして、ナンバリングの①から⑭まであるので、補足資料の番号をつけて、①知・徳・体のバランスのとれた育成というふうに資料にしてあれば、資料を見ながら回答ができる。

事務局 すいません、であればアンケートの前に、参考資料の方ですよね、2 ページのところですけども、多少文字数は多くはなるんですが、このそれぞれの項目について、まず字が少し小さくなったとしても説明をもう少し加えさせていただくような形で記載させていただいて、ここを見てくださいという形にすることはできるんですけども、ちょっと細かい字を載せるようにはなりますけれどもどうでしょうか。

委員G ここはA3開きで、あってほしい文字のサイズだと思います。
ページの構成を何か工夫できないのかなと思いました。
初めについていうのも裏表紙白くしてからずらしてでも。

委員C これ、学校側から保護者の方に説明するっていう場を設けることはできないですかね、この資料の、これで各自でこれ見てくださいうっていうふうに配られるのも仕方ないと思うんですが、やっぱり、私これ見てるとですね、実際に今回も現場をいろいろ見てるとですね、小規模校のメリット・デメリットっていうのも載せとられますよね、だけどこれが実際に学校側の先生、生徒数に応じても学校の先生の割り当て分とかっていうふうなのが非常に、これがどういう影響するのかっていうふうなのは、私も実際にその現場を見てないと、言葉で第1回目で話は聞いてたんだけど、実際、どのぐらいそれが学校の現場で問題となっているのかっていうふうなのを各学校のその状態を保護者の方がちゃんと見ながら、学校は説明する場を1回設けないと資料だけでは保護者の方はわからないんじゃないかと思いますので、やっぱり学校がちゃんとこれを渡すだけでなしに、これを見ながら今学校ではこういう問題が出てますっていうことはやっぱり伝えられた方がいいような気がしますけどね。どうですか。

例えばですね、学校数のこれでも、第3章、ちょっとすいません、飛んでしまうんだけど、私がいつもその今回見て思うのが、例えば学校のその、中学校が40人でしたっけ。

事務局 はい。

委員C 小学校が35人ですかね。これがどういうその数字っていうふうなの
がどういう影響をするのか、やっぱりあの資料だけじゃちょっとわから
ないんじゃないかなというふうに、今の複式学級とかもありますよ
ね、切串小学校さん、三高小学校さんもね、今後なってくる。

こうすると例えば教頭先生が授業に出なくちゃいけないとか、三高
でしたっけ、何年か先には先生が2人になるとかっていう、そういう
現状値とかも書かれてますよね。

それが、いわゆる生徒たちに対して、どういうふうな影響になっ
てくるのかっていうのも、多分資料を配っただけでは皆さん実感として
ないんじゃないかって、分からないんじゃないかっていうふうに思
いますけど。

事務局 それは地域説明会を、この参考資料の内容を説明して回るっていう、
そのうえでアンケートをとるっていうイメージですか。

委員C 各学校でその保護者の方に何かしらで説明を少しするとかですね。
それを出る、出ないは保護者の自由なんですけど。
まあ、しっかりやるのであればですね。

事務局 それであればアンケートの時期がまたずれることになりますけど、
委員の方々の御意見として本当に保護者説明を行った上でアンケ
ートを実施するほうが望ましいというようなことであれば、事務局とし
ても検討してまいります。

委員C 切実に多分そういうふうなことが直接的に統廃合になる学校って、
この場で言うのは不適切かもしれないですが、見えてるんじゃないか
と思うんですね。特にそういう学校の保護者の方には今問題になっ
ていることを事前にしっかり説明をされたほうがいいんじゃないです
かね。

事務局 そうですね、今の段階でその軽重を付けることはないんですけども、
学校ごとのどこがっていうふうなところは、これから検討していく内

容かと思うんですが、言われているように、前回も委員の方からお話をいただきましたけども、やはり地域に対する学校のあり方のワークショップだとか、そういった会をした方がいいのではないかというのもありましたので、また委員の方々からもそういうふうなことをまずやっぱりやってみるべきじゃないかというふうな御意見いただいた場合には、うちとしてもそれはできるかなというふうに思いますけれども、その場合はアンケートの時期をもう少しずらさなきゃいけないんですけれども。

委員長

小学校の校長先生と中学校の校長先生がいらっしゃるので、学校で保護者向けにこの内容の説明会とか、アンケートの答え方ですね、一応声掛けをして来てくださった方には、説明だけなのか、もうその場で説明しながら回答しているのかはわからないんですが、そういうことは現実的ですか、あるいはすべきというお考えですか。

その説明は学校ではなく事務局で。

事務局

はい、それは事務局の方で。

委員F

多分、集まるとしたら、夜のところで学校の施設を開けて、そこにPTAの役員会とかも、大体18時半くらいからやってますが、そういった機会を、案内を事務局から出して、どれだけ集まるかは分かりませんが、いつの何時から何時までお集まりくださいということで、これは事務局の負担になると思うんですが、可能であればできると思います。

委員C

なぜかという、ここにいる、その委員会は私達もたまたまその、PTAの会長としてこの場にいるんだけど、やはり一つのその窓口にもなると思うんですね。

そのときにそういう説明をするときに、やはり間違っただけの情報とかっていうふうなのを伝えるっていうのは、多分、聞いてくるとしたら個人的に聞いてくると思うんですよ。そうしたことにに対して、私達がちゃんとした回答っていうものをできればいいけど、それがなかなかできないんじゃないかなっていうふうに思うんですね。

そしたらやっぱりちゃんとしたその場で説明会があったら、そのとき説明がありましたよっていうふうなこともやっぱり私達も伝えることができるし。

こちらの立場としても、やっていただくと助かる。

実際に不安に思ってる方結構たくさんおられると思うんですね。

委員長 任意参加で、参加できない方はこれ見て回答していただくということで、何度もするようなことではないので。

委員K こども園の保護者の方は初めてのお子さんが多かったり、初めて小学校に入る。そういったときに、この資料を見たときに、多分何が何だかわからないと思うんですよ。なので、説明があると、とても助かります。働いているお母さんが基本なので、集まるかどうかはわかりませんが、聞きに来れる、聞きに行けるっていう機会があるということとは理解を得てもらえるんじゃないかと思うので、私はぜひ賛成です。

委員C これはやっぱり地域全体で考えていくべきことなので、だからこそういう委員会が発足されていると思いますので、その方、その地域の方や保護者の方にはちゃんと説明をするっていうことは一つ必要ではないかなって私は個人的にそう感じます。

それが2章、3章にする、私は実際、個人的にはどっちでもいいと思ってるんですが、どちらも言い分が分かるので、最初の2章は江田島の教育についてどうみんながどう考えていくかというその意識をしっかりと定めるために、2章で答えてもらって、その後に現在の問題を考えてもらう。

流れとして私は非常によく作られてるかなというふうに感じてます。

ただそこに対する、ただその資料見て、アンケートに答えてくださいだけじゃなくて、そこにちゃんと説明をするという場をちゃんと設けたっていうこともまた一つ大事じゃないかなっていうふうに思っています。はい。

委員長 説明して欲しい方はいらっしゃるっていうことなんで、どういう形でその説明をといるところで、御意見いかがでしょう。

委員I これを説明するのに1時間以上かかるっていうことであれば、これを説明しますっていう説明会をしていただくことが必要かもしれませんが、保護者が夜来るとか小学校の場合も、なかなか難しいなっていうところを感じているところです。なので、学校の参観日などに終わってから、30分ぐらいとか、学校に任せて、その後下校できるような時間帯にするとか、ちょっと工夫が必要かなというふうには感じます。

委員長 説明会するときの日程、今後の展開、日程でいうと何時頃説明会をしてとか、スケジュール感は。

事務局 スケジュール感としては、学校の方がこの10月から11月にかけて、学校行こう週間だとか文化祭、それから学習発表会で参観日の方を設けられておられると思います。

その次の機会の参観日となりますと、おそらく1月になっていくのかなというふうには思いますが、どうですかね、違いますかね。

委員Ⅰ うちは11月にあるんですが、それはもう参観日のあとに講演会を予定しているので、その後となると、ちょっと難しいかなと。

事務局 ですねそうすると1月ぐらいの日程になるかなというふうには思います、その上で学校でやらせていただいたときに、こども園の方々をどの位置で参加していただくのかっていうのも、ちょっとその辺りちょっと悩ましいなというふうなのと、対象をどこまで広げて話をさせていただけなのかっていうところもありますので、どうでしょう学校を起点としまして、こども園の方々にもお声がけをさせていただいて、更にそこへ地域まで広げるかどうかというところはあるんですが。

委員C いや、保護者でいいんじゃないかな。

そして保護者がまた発信源となってやっていただけるので、地域までとなったら、それはちょっと難しいかなって思います。

事務局 であれば、少し本当に現状をお伝えさせていただいて、今統廃合するじゃないですけど、そういう話じゃなくて、あくまで江田島市の現状をお伝えさせていただいて、今後江田島市の学校をどう考えられますかという、軽くワークショップをするような形の本当に1時間以内ぐらいでできれば、各学校9校を回らせていただくことはできるかなというふうに思いますけども。

委員C これ基本的なことなんですけど、統廃合になるとして、今回2年という期間で設けられているじゃないですか、この委員会。

事務局 はい。

委員C 統廃合っていうのが、その2年の間に行われることはないんですよ、後で、その方向性だけ決めるという。

事務局

あくまでこれはですね、答申ということで、この委員会としての御回答を、教育長の方に最終的には答申していただきます。

それをもとに、また教育委員会、それからまた本庁の市長、副市長とも交えながら今後の学校の在り方というのを考えていき、その方向性が定まった段階でまた学校、地域の方に説明させていただくということになりますので、年数的にはそう簡単にいくものではないわけです。

委員C

そしたらもうそんなに急がなくても、これアンケートとかっていうのはどうなんですか、アンケートだけ急いでも。

事務局

ただ委員の方々が今後方向性を定めていくにはやはり、保護者の方はいくこういう思いを持ってるからっていうふうな御意見を出していくためには、ある程度ないと難しいんじゃないかなと考えてますけども、そうなりますと、今の時期的には1月に説明会させていただいて、次、集まっていただけのものを2月ぐらいに設定すれば、アンケートも実施できて、そのアンケートを参考にまた御意見いただけるかなとは思いますが、少しちょっとずれずれにはなっていくと思うんですけどもいかがでしょうか。

委員J

時間をかけるのは構わないと思います。

むしろ急いで、スケジュールありきで進める話じゃない。

丁寧な段取りをやった方がいいので、そっちがいいと思います。

まあ、ちょっとできるかなっていう懸念はあるんですけど、説明した上でアンケートをとるというのは悪くない話だと思います。

それが可能なようであれば、やって結果ずれるというのは構わないと思います。

委員C

せっかくやるのであれば、しっかりやった方が。

事務局

ありがとうございます。

今の御意見、皆さんの御意見でいけば、その説明会っていうか、そういう場をきちんと作っていく方がいいというふうに伺いましたので、そういう場を作れるように計画していこうと思います。

委員G

1月には全小・中学校で参観日があるんですか。

- 事務局 大体ですね。
- 委員 I うちで言ったらですね、次が2月の半ばになります。
- 事務局 そうなんですね。
- 委員 I 1月はないんです。
- 委員 F うちで言えば11月28日に参観日はあるんですけど、修学旅行説明会とかは別の会が設定してある形ですね。
1月も一応ありますが、その後1年生の進路説明会等もやる予定になっています。
- 事務局 であれば、本当にもう別日で設定させていただいて、夜になるかもですが、その場を持たせていただける方がありがたいかなと思います。
- 委員 G それを実施する際、参観日にこだわらないんだったら、学校ごとにこだわらなくても、もっとある程度地域をまとめてもいいかなと思ったんですけども、大人数になりすぎてまずいもんですか。
逆に行きにくいですかね保護者の方が。
大柿町の地区で大古小学校でとか。
- 委員 B 中学校地区単位とかいうのもありますよね。
- 委員 G 中学校地区単位だと3回でいけるかなと思うし、このアンケートをまずは多分配らない。これ見ながらじゃないとできないと思いますから、このアンケート、最初の方にでも各地区の説明スケジュールみたいなのをつけておけば、3地区どこに参加してもいいよっていう形にしとけば、3回チャンスが。
- 委員 F そうですね、別にどこの地区でも差し支えないですし。
多分、グラウンドを駐車場にすれば、今夜でもあのライト結構明るくして、交通事故がないように多分できると思います。今LED化していただいたので、それも可能だとは思いますが。
- 委員長 では、説明会を中学校で3回開いていただいて、可能な限り行けるところへ、関心のある方か、参加可能な方は、どれかの日で、どの中学校に行っていただいても構わないというふうなアナウンスを。

事務局

そうですね、今のいただいた意見をもとに、うちの方でもう少し練ってみて、例えば学校を使わなくても大柿市民センターでできるのであれば、学校の方に負担かけなくて済むかなと思いますので、そういった形である程度エリアを作って説明をさせていただくというような形で、例えば能美中学校区ではありますが、三高と沖美と沖と鹿川、中町を全部一緒にするのが本当にいいのかどうか、もっと別な、少しちょっと分けた方がいいのかどうかもありますので、検討させていただいて説明会をさせていただくという方向で進めたいと思います。

委員長

ではアンケート項目に戻っていただきまして、大方の意見では第2部、第3部の順番で構わないっていうところで、マニュアル、パンフレットを見ながら回答いただくんだけど、ただ見るだけではなかなか分からないので、一度説明会に参加いただける機会を設けるということで、それを前提に、この第2部のページのところを見ていただいて、今のところ様々な御意見が出ましたけれども、①から⑭までは入れて良いということですのでよろしいでしょうか。

あと、回答項目がこの四つでいいかどうかというところで、簡便な方がいいという意見もありましたが、それほど負担もないだろうというふうな意見もありましたので、結果としては原案通りで、第2部はいつていただきます。

⑭のあと、その他の自由記述があって、ここは答えなくても次に進めるっていうふうにしてあれば問題ないと御意見いただいたと思いますので、それで行ってください。

続いて第3部に入らせていただきます。

御意見もいただいて、改案も添えていただいています。

第3部、1から10までございますが、第3部を通してどれでも構いませんので、御意見いただけたらと思います。

委員G

第3部の一番上の意見は私が書かせていただいたんですけども、これはもう御回答いただきましたので大丈夫です。

委員J

第3部の質問3はちょっと迷っておられる感じですかね。

事務局

第3部の3ですか。

委員J

はい

- 事務局 そうですね、学級数については聞かず、学校全体の規模だけとするか否か。
- また、他市では複式学級に関する考えを聞いてどうするかということとで、ちょっと迷ってはいます。
- 委員 J そことしては、参考の聞き方でいいのかなと思います。
- 委員 A 複式学級っていうのは、親御さんは全員言われて分かるものですか。
- 事務局 そうですね。そこは注釈の方を複式学級の方を選択するのであれば付けさせていただくような形にしたいと思います。
- 委員長 では、一つ一つ聞いていきましょうか、1から順番に。
- 1は特に。
- 御意見は質問項目1、2を選択する数を同数にした方が良いというところで、改案として挙げていただいて追記案と削除案の2つですけど。
- 事務局 この1と2に関しては、「良い」と「良くない」と聞いているということもありまして、同数にした方が、印象的に何か操作しているようにならないので良いのではないかという御意見をいただきました。
- であれば1の方には、二つの項目、「複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒がお互いに学び合う活動を充実させることができる」というのと、「児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる」というのを付け足して数を増やし、2に関しては、「クラス替えができないとずっとクラスは変わらないため人間関係の固定化が懸念される」というのが同じような内容なので、一つにまとめることによって数を減らし、極力同数になるように調整するというふうに考えておりますがどうでしょうか。
- 委員 B いいと思います。
- 委員長 では、改定案でお願いいたします。
- 委員 G 「特にない」と「その他」、回答の数に入れちゃわないと同数にならないと思うが、これ入れてるって感じですか。

事務局 そうですね、入れるとまた増えますね。
もう少し削って、近づけるようにします。

委員長 3の既に御意見いただいておりますが、「小学校の適正な規模の学級数はどのくらいがよいと思いますか。」について、みんなが「1学年2学級」が良いと言ったら、そのことを前提に協議しなくてはならない。

委員H どのくらいが良いと言われても、現実的に人数が減ってくることになると思うので、私としては、この「複式に対する保護者の考え」というのをアンケート項目として入れた方がよいと思います。
今複式があるのって三高だけですか。

事務局 いや切串もです。

委員C だから、同じクラスの中に学年が違う人が一緒にいて、一人の先生が違う学年を教える。

委員長 3の回答は統廃合の根拠になりうる。

事務局 もし御意見いただいたことに関して言えば、1学年2学級が最多ということになったときに、委員の方々の御意見もあり、皆さんのお考えがそうであればやっぱりまとめなきゃいけないとなったときに、うちの規模で考えたら本当に全てを集約しなきゃいけなくなってしまうのは確かなんです。

だからそれをあえて聞いてしまうと、もうそこにしか、そこに縛られてしまうっていうのもありますので、もっとファジーに聞いた方がいいのではないかという御意見だったように思います。

それであれば複式だけを焦点絞って聞くのも良いのではないかと事務局も思います。

委員長 3で聞きたいことが何なのかというのが、ちょっとよく分からなくて。複式学級についての考えを聞くので、この3で聞きたいことが聞けることなのか。

事務局 事務局としましては極端な少人数の学校っていうものに対してどういった思いを持っておられるかということが、ここから伺えればいいかなというふうに思っておりました。

委員長 学校数を維持しようとするすると複式学級が増える。

事務局 はい。

委員長 で、いいあんばいに落ち着くところがどれぐらいの学級数なのかっていうところで、複式があっても学校数を維持するというのか、学級数を望ましいものにするために、統廃合を進めるべきなのかの根拠になる。

事務局 はい。

委員長 それを反映させる聞き方は何なのか。
設問を一つ増やしてそれぞれ聞くのか、一緒にするのか、同じ聞きたいことを聞くんだけどもう少し違う聞き方にするか。

委員 J こちらの方、これでいいかなと思うんですね、学校数や学級数を決めて、多分数だけで決められる話ではないんで。

後でも出てきますから、学校の施設がどうなのかとか、通学の距離はどうなのかとか、総合的に考えなければいけないと思うんです。

ということで、複数の設問で皆さんの意見をもらって、全体を見たときにどうなるかっていう考え方をすべきなので、とりあえずここについては複式については、多分「できるだけ避けるべき」という結果が多くなるんじゃないかと思うんですね。

そういう考えだけをここでしっかりやっていけばいいんじゃないかという気がしますね。

委員長 でしたら3を残し、追加質問として、参考で挙げていただいてるものも。

委員 J 僕の考えとすれば、この3の設問なんていうのは、どう考えても1学年2学級にチェックするっていう気がするんですよね。

ただ、それが大半になったからといって、じゃあ実現できるのって言ったときに、先ほど言われたように、子供めっちゃ集めないといけない。

結局、ここで聞いたことがあんまり生かされないっていうことなのかなというので、ここであれば、複式についてはどうですかっていうので置き換えて、それを聞いておいて、なるべく複式は避けるべきだ

よねっていう意見が多数を占めるような結果になれば、それが材料になるかなという。

委員G

すいません、教育委員会の方の意見が分からないので、勝手な気持ちもありますけれども、この3番の設問は、6番の中学校規模を聞くことの布石になってるのかなと。

小学校では、2学級になれたのでそう思ってないけれども、中学校だったら、私は2学級あった方がいいとは思うんですよ。

難しいところなんですけども、あった方がいいと思います、いろんな運動会とかイベント事を考えつつ、あった方がいいと思いますんで。

いうことで、そこを中学校で多分聞きたいのかなと思ってですね。

そうすると小学校にその同じような質問がないとおかしいっていうことで、6番を聞きたいから3番もついでに聞いているっていうところなのかなというふうに思ったんですけども。

とすると、3番は残した方がいいかなと思ひまして。さらに最低限これは避けて欲しいよねっていうところで、この追加で4番としてですね、複式学級についての考え方を選択してくださいっていうのを増やした方が私はいいかないかなというふうに思いました。

委員長

両方聞いて、ある意味矛盾する回答が出るかもしれませんが、それぞれの理想として、どういう御意見が上がってきたのかっていうのはデータとしても構いません。

中学校の方で6、中学校の特性、適正な規模の学級数はどのぐらいが良いと思いますかってあって、複式学級を中学校でできるのかしら。

事務局

これがですね、中学校に関しては広島県は複式を持たないという方針ですので、どのような状況になっても、たった1人であっても開所するというふうな流れになりますので、設問自体がなぜないのかという注釈がいるかもしれませんけども。

委員G

あった方がいいかもしれないけど。

事務局

まずはそれはあり得ないということなので、きちんと小中を揃えるのであれば、その注釈はちょっといるかなと思います。

委員長

参考に上がっている複式学級についての考えを選択してくださいっていう方向で、つまり小学校の複式学級についてっていうふうに関

いたらいいんですかね。

そのあと括弧書きぐらいで広島県では中学校の複式は認められないですねっていうのを添えてもらったら、誤解は少なくなると思います。

事務局 わかりました。

委員G そうなんですね。中学校の方のその他って本当にウルトラCですね。どんな形態が考えられるんだろう。

委員長 はい、もう20時をまわっております。
4に移ります。
わからないという選択肢を設ける。
人数の単位を少しおおまかにする、改案の方でよろしいですか。

委員C はい。

委員長 4はそれで進めていただいて、5、江田島市には6つの小学校があります。
市内に何校の小学校があれば適正な配置だと考えますか。

委員C これは私も実際にこう見たときに、ここはちょっと引っかかりました、分からないとかですね、分からないですよ保護者の方は実際に。

事務局 これも事務局としまして、やはり今皆さんに御意見いただきまして、かなり乱暴なところもあると思いますんで、できれば改案のような形で変えさせていただける方がいいかなというふうに思います。

委員C すいません、ちょっと戻るんですけど4のところですね、このことに関しては今度説明会をもしするのであれば、その学校の先生の今の現在の負担もちゃんと説明のときに説明してもらってもいいですか。

事務局 わかりました。

委員C これは保護者の方の生徒に対する、自分のこどもに対する思いだけでなく、学校側の多分、都合ってやっぱりずいぶんあると思って、そこはちょっとちゃんと伝えていただきたいなという、それは私もよ

くわかりました。

委員長 という事は聞き方を変えていただく。

事務局 はい。

委員長 問6は聞いてもらう。

問7、御意見があつて、これは問5の小学校に合わせて、問7も考えていただくっていうのでよろしいですか。

委員G そうですね、はい。

委員長 問8。

委員G 廃止は聞かないっていうか、適正な位置っていうような、任意で聞かない方がいいですか。

ちょっと刺激が強すぎますか。

委員長 どの中学校から廃止するかっていう。

委員G そうですね、最終的にもうどっか1校になるなら、小学校も中学校も、最終的にどっか1校になるとしたらどこがいいっていう。

委員J 多分、この情報量だけで聞くのは厳しくないですか。

委員G 厳しいですよ。

でもちょっと、我々最終地点、どこに持っていくのかっていう悩ましいところがありまして、統合してきた方がいいよねっていう、普通に考えたら当たり前の意見を最後、私達このわざわざこんな人数集まって言って終わりなのかっていうところもありまして、提言ってどこまでするんだろうかって考えたときに、ちょっと突っ込んだ内容まである程度ないと、あの存在意義がなかったのかなっていうふうにちょっと思いました。

そんなに遠い未来じゃないですよ。

こどもの推移、5ページとかにあるようなですね、推移を見るとそんな遠い未来じゃないんですよ。30年40年先には、この市内6校、小学校の場合だったら全て複式、前学年が複式と三高のような感じになってしまうというところですよ。校舎なんか建てたらですね、50

年以上使うじゃないですか。ということは今の段階で考えていかないと、例えば30年、40年先の話ですから、考えておかないととなつたときに、ちょっとせつかくなんで、ここまで突っ込んだ話はやっててもいいのかなというふうに思ったんですけどもいかがでしょうか。

委員 J 多分、材料をもっと提示しないと厳しいと思いますね。
 例えばここここにするという、じゃあ生徒は入るの、それって通えるのとか、いろいろあるんですよ。

委員 G なるほど。

委員 J そこを全部提示した上で、聞くっていうなら、なんかいい回答もらえるかな。

委員 G そうですね。

委員 J 何かこの材料で答えては厳しいから、ちょっと僕はそう思いました。

委員 G じゃあ第1弾ということで。

委員長 はい、ありがとうございました。
 ここでの議論は自ずと浮かべられるかもしれないですけど、今回のアンケートでは聞かないという。

委員 G はい。

委員長 問9、改案にある方で、入れ替える方が良いか、改案は答えやすいか、はい御意見いただけますでしょうか。

委員 C 小学校は改案ですよ。
 中学校の方も一緒にしたほうが。

副委員長 すいません。この質問の意味といいますか、これもし反対がばあつと多かったら辞めになるんですか。

事務局 それはあくまで、今皆さんが思っておられる意見ですので、それは尊重はしていきますけども、はたしてこの委員会の中でそれが本当にそれが全てをそこに行くのであれば、アンケートだけで全部決まって

します。ですので、それをもとに検討していただくということになります。

委員長

プレテスト・ポストテストって考えがありますがけれども、説明会を聞く前で、もう反対ばかりっていうのが、市民の方、住民の方に御説明をする中で、どちらとも言えないが増えれば、それは説明の効果があつたっていうふうにも言えるんです。

そういうことを知りたいというか、データとして取っておきたいのであれば、この設問はありかと思います。

事務局

9番をそのままです。

委員長

はい。

9番を残すのであれば、その残す根拠というか、現状を知りたいですっていうよりも、まったく同じ問いが、もう一回アンケートをする機会があつて、それはもっと簡便な最終案に近いようなものをもう1回御意見を伺うっていうの、今回のような調査ではなくて、そこに同じ問いを入れたときに、どういう差があるかで説明がある程度、十分進んだのか、なかなか市民の理解が得られなかったのかの判断にはなるのには使えると思います。

そうしたときのプレテストとしての聞き方がこれで十分なのかっていうのは、単に賛成、反対でいいのかっていうのは、ちょっとよくわからない。

十分かも知れないですが。

委員J

9番、聞き方を別の言い方にしたのが改案だと思うんですね。

この聞き方がいいのかなという気がしますがね。

これちょっとあれなんですけど、宮城県の角田市さんが、こういう聞き方をしていって、結果で一番多かったのが、後三つ目ですね、学校を統合し児童数を確保するっていうのが一番多かったんですよ。

だから、今回、そういうふうな傾向っていうか、そういうふうな回答傾向さえ貫えれば、一つの根拠にはなるのではないのかな。

委員G

この改案の設問の2番目「通学区域の一部を見直し適正な情勢を確保する」って具体的にどういう意味なんでしょう。

事務局

エリアを変えるということになりますので、例えば三高小学校の校

区を高田までというふうに校区を変えるということですよ。

委員G で、多分高田だけじゃ足りないから、中町小学校があるんだけど、中町の一部の人は三高に移してるよってということですかね。

事務局 あなたの指定校は今後三高になっていますという形になりますね、それでいくと。

委員G なるほど。

事務局 それは確かに分散はしますけども、母数は増えるわけではないので、パイの取り合いにはなると。

 中町が減って、三高が増えるという形になっていく形ですかね、それでいくと。

委員J 参考までに言うと、角田市さんはこれが二番目でした。

委員G ああ、そうなんですか。

委員B もうちょっと柔らかくした方がいいなと思ってて、これ単純に親目線で見ても、適正化を進めることに賛成しますか、反対しますかって言われた時に、三高に関わっている人もたくさんいる中で、僕の中ではほとんど反対すると思うんですよ、関わってる人が多いと。

 でも別に反対してるわけじゃなくて、致し方ないみたいなところのもうちょっと表現を変えないと、これまたこの、特にこの私の感覚では、江田島市の全域がある程度、各々の特色があってってなってるから、市全体がもう全部が危機感ですよってなると、この統合に賛成するみたいな流れも出る気がするんですけど、あんまり関係ないところからすると、別にどっちでもいいんじゃないかっていう。

 それだと、9、改案の方が学校統合は行わないかでいうとあれですけど。

 反対するの結果が出たときに、私たちは結果として出てるのが事実であって、何かここを覆すのってすごい大変なんだ、何のためにアンケート取ったんですかって言われたら、てなると反対するの表現とって賛成するっていうよりも、1回目はもうちょっと緩やかに聞いて、例えば2回目で、本当にこういう方針でいきたいです、どうですかみたいなところが出た方が。

- 委員C そうですね、改案がいいと思います。
いや保護者、このアンケートは保護者ですよ。
あの9の設問はこれちょっと風呂敷を広げすぎてるような感じで、まだその具体的なね、そういったこともまだはっきりわからない保護者に対して、この9番の設問というのは、ちょっとどうなのかな、ちょっと飛ばしすぎというか、いう感じですわ。
今言われた改案のぐらいで定められた方がいいような気がします。
- 委員長 9の元の質問に改案を入れ替える。
- 事務局 はい、分かりました。
- 委員A 改案の「適正な児童数」という言葉が、今までに出てきていない気がするんですけど、適正な規模というのは、学校規模は出てきましたけれども、「適正な児童数」というのが具体的に何を指しているのか。
- 委員G 難しいですね、言い方が。
- 委員C この「適正な児童数」というのは、この6ページのところにあたるんですよ。
- 事務局 「適正」というところは、やはりかなり幅が大きいので、例えば35人なのか20人なのか、そこは決められないところですので、例えばここでいくのであれば、「適正」という言葉を取って、もう少しフアジーな感じで、「通学区域を見直し児童数を確保する」とする。
そこはちょっと個人の判断になりますけれども、どのくらいかっているのは。
ただやっぱり集めた方がいいと思われるか思われなかっていうようになるんですが、どうでしょうか。
- 委員長 よろしいですかね。
- 委員C だから「適正」だっというのを外すということで。
- 委員長 「適正な」を取って、「通学区域の一部を見直し、児童数を確保する。」にすると、聞きたいこと聞ける。

むしろ「適正」がつくと何を根拠にしたっていうようになる。

委員G

回答者の意見に委ねるんだったら、もう小学校とかだったら4ですかね。

あなたが回答した1学級当たりの人数を確保するっていうような形にするかですね。

委員C

やっぱり児童を確保するでいいんじゃないですかね。
そしたらつながる。

委員長

はい、御意見いただいて、改案として、あるいは代案として、学校の規模適正化・適正配置を進める上でどのような点に配慮すべきだと考えますか。

これ、その他を含め三つ以内というただし書きは分かりやすいですか。

最大三つまでチェックを入れることができるということですよ。

事務局

そうです。

最大三つまで。

ごめんなさい、その他を作ってないですが、その他が一番下に行って、記述ができるようにして三つまでという形で。

委員長

三つまでにすると三つぐらいないといけないって思うかもしれない。

事務局

そうですね。三つ以内。

保護者の方の負担を考えれば一つでもいいし二つでもいいし三つ。ただ、そこまでにしてというのはどうでしょうか。

委員長

どういう日本語が分かりやすいですかね。一つでもいいし、二つでもいいし、多くても三つまでにしてくださいっていう。

一つ以上三つ以内。

委員D

三つ以上だとぼやけるって意味ですか。

事務局

三つ以上だと全部ばばっと入れてしまわれる方もいらっしゃるんじゃないかと思いましたので、ある程度絞っていただきたいなと思いました。

- 委員C いい加減な気持ちだと全部になる。
 それも一つの選択肢ではありますよね。
- 事務局 できれば、その優先順位という意味で三つ程度にさせていただきたい
 なという思いでおります。
- 委員長 ただ、データ化したときに一つしか答えなかった人と三つ答えた人
 がいたときに、数としても、全員が三つ答えられるのであれば優先順
 位が出せると思いますが、1人の人が三つ答えて、3分の1ずつ得点
 であれば、まだ、データが可能です。
 最も重要なものを一つ選んでくださいでは駄目ですか。
 いやまあ、最も重要だと思いますので、三つ選んでくださいとか。
- 委員C 特に特に重要だと思うのは3つ、最もと言うなら、特に特に重要な
 ものを三つ。
- 委員長 それである程度ばらけても。
- 委員C はい。
- 委員長 そっから比重が見えてくる。
 はい。で、その他自由記述があり、最後のところで、御意見があっ
 て、豊田市の例が挙げられています。
 御意見出してくださった方は、これで止まるんじゃないくて、もう一
 つ質問項目を増やしてほしいという。
- 事務局 はい。
- 委員J そうですね。
 これ僕なんですけど、必須だとは思わないんですけど、まあ、これ
 を聞いといたらあれですよ。我々が答申書くときに、こういうとき
 に統合するときには、こういうことにも配慮してくださいねってい
 うか、付帯意見でそういうのを書くときの材料になるとか、そういう思
 いでこの項目があってもいいかなというふうに思いました。
- 委員G これは先ほどみたいな回答数に制限を設けますか。

委員 J そうなってもいいですね。確かに。

委員長 その他で自由記述をつけていただいて、特に重要だと思うものを二つぐらいですかね。
 どうでしょう。一つでいい。三つ。

委員 G これ、先ほどからあれなんですけど、質問は 6 個しか、その後も 6 個しか回答がないので、三つ選ぶっていうのは半分選ぶわけじゃないですか。これで有効な分布ってでるもんですか。

委員長 ちょっと直感的な、一応出るとは思うんですけど。

委員 A GooglrForms の設定上、これを優先度をつけて 1 番、2 番、3 番と
 いうので傾斜をかけることはできるんですか。

事務局 GooglrForms ではできると思います。

委員 G 順位付けるんだったら、ちゃんと分布がでると思います。
 増やせば増やすほど、ブロードを待って差がなくなっちゃうので。

委員長 よろしいですか。

委員 G はい。

委員長 では、10 と追加項目は、順位をつけて三つ選ぶ。

事務局 はい。わかりました。

委員 C その二つだけですよね。その二つだけでしょ順位を付けるの。

事務局 はい。

委員 C いや他のもそういうのでありますね、その 3 の 1 とか。

委員 F 3 の 1 と 2 は、これ複数選択だけで別に。

委員長 そうですね。
 はい、アンケートについての検討を以上でございます。

- 事務局 ありがとうございます。
いただいた御意見をもとにまた修正をして、またお配りしたいと思います。
- 委員長 添付資料について、補足説明はございますか。
- 事務局 はい、すいません時間がだいぶ過ぎて参りましたが、今いただいたアンケートの意見をもとに、これは参考資料として付けさせていただくんですが、既にいただいている意見としましてはそこに黄色で吹き出しのように書き込みをさせていただいております。
特に大きいような御意見がないようであれば、今いただいた意見を反映しながらこれをさらに修正して、委員の方々には再度お配りさせていただければと思いますかどうか。
- 委員C 一点よろしいですか。
- 事務局 はい。
- 委員C 私、これちょっと見ていたときにですね、2ページ、私はその学校教育の指針っていうのがやっぱり大きなテーマになるんじゃないかなっていうところでちょっと思ってるんですけど個人的に。
ここで2ページの学校と家庭地域との連携協働というところでですね、この大柿高校っていうふうなのが出てくるんですね、ポツポツと。
この前、視察のときにも確認したんですが、あそこは県立なんで、ちょっと江田島市にとっていうことはあるんだけど、やはりこの大柿高校の在り方というふうなのもやっぱりここにかかってくるようになってるんですよ。連携は取って。
- 事務局 これはですね、江田島市教育委員会の基本理念というのは、今、教育大綱とに載ってる全ての項目なんです。
- 委員C はい。
- 事務局 これは江田島市の市長が今後江田島市の教育をどういうふうに進めていくかというところについて挙げた項目になります。
ここに書いてある大柿高校の存続や支援ということで、今、江田島

市の方では補助金を出して支援の方はずっと行っていると、これを継続していくという意味合いです。

委員C そうですね、いや意味はわかるし状態もわかるんですけど、私達がそのまだこどもが小学生なんですね、大柿高校の実態っていうのがあまりよくわからないんですよ、どういうふうな状態なのかっていう、今回のその視察に関しても、学校視察ですね、大柿学校は多分行ってないはずですよ。

事務局 はい。

委員C その大柿高校っていうのを見させてもらうことはできないんですかね。

事務局 いやそれは大柿高校の学校の公開等がありますので、見ることもできます。

委員C この前、各学校の校長先生が今の学校の教育方針とかですね、今の状態とかっていうの説明をしてくださったんですけど、そういう形で一応、大柿高校の今の状態っていうふうなもの、一応情報として。

事務局 それはできないわけではないですが、この今回のこの関係として、それが必要であればそういう場を作りますけども、委員の方々が、今後の小中学校の適正規模・適正配置の中で、やはり大柿高校の情報が必ず必要だというのであれば、そこは交渉できるかなとは思いますが。

学校公開の案内自体は、広報の方にも今月、入れさせていただくんですけども、11月に大柿高校自体の公開もありますので、そちらに行けば、校長先生に直接話をするような場はないんですけども、様子を見ることができます。

委員C なるほどですね。
分かりました。

委員長 添付資料については、一応これであの御意見もかなり出していただきましたので、次第のところでもう他に移ります。

皆様から大柿高校のことも出していただきましたが、広くいうところで検討すべきものであるとか、疑問に思われることとか出していただいて、共通理解を作っていきたいと思うんですが、御懸念のことと

か、聞きたいこととか、よく分からないこととかございますか。

委員A

はい。前回のワークショップで3グループに別れたときにCグループの方からこどもの意見を聞いてほしいという意見がでて、非常に大切だなと思いました。

こどもの意見表明権っていうのが今教育学でよく言われますが、実際に、あの、町を作っていく上で子どもたちの意見も政策に反映していく、意見を聞くっていう姿勢を示すことも非常に大事なかなと思っていまして、今回保護者アンケートの検討でしたけれども、Cグループの意見で多様な子どもたちの意見を聞く機会っていうのもどこかで設けてもいいのかなと思います。

それはアンケートとかの量的なものよりも、もう少し例えば生徒会の代表とかでもいいですし、自分たちの学校の好きなところとか、或いは困っているところとか、そういったざっくりした聞き方から始めてもいいのかなと思いますので、そういった機会を検討していただけるとありがたいなと思います。

委員長

はい。関連してちょっと御意見を伺って事務局に依頼がでてきたと思いますが、こどもの意見を聞くという考え、それから聞き方、どうでしょうか。

委員G

小学校の場合、生徒会とか児童会か、そういうレベルだったらいいと思うんですけども、ちょっと全ての学年になるとなってくると、答えられないかなと思いましたので。うん。小学校はせめて児童会なりでくくった方がいいかなと思いました。

学年で高学年としてもいいとは思いますが。

委員F

はい。中学校でいえば、以前江田島市の今後の110年間を考えるそういったところで、2年ぐらい前に大柿高校の生徒、それから大柿中とか中学校の生徒会、それらが集まっていろんなアイデア、それをやっていく会もありました。

私もちょっと、途中まで参加させていただいたんですけど、そういった機会はもちろん大事かもしれないですけど、子どもたちにこの適正化の視点でのイメージのところがちょっと難しいかもしれないですし、ちょっと分からない、もっと一緒に、たくさん一緒に練習試合とか部活もしてますから、そういった視点の意見は出てくると思うんですけど、適正化という視点での話し合いというのが、江田島市の今後の未来、これは非常に良かったと思うんですけど、そういったとこ

ろが、どんな感じで、市とくっつけたとしても難しいんじゃないかと、そこはちょっと感じますが、ただ、前回の10年を考える会は良かったようなイメージを持っています。

委員長

例えばその10年を考える会に参加した生徒さんに、抽出調査じゃないですが、抜き打ちでちょっとお話聞かせてくれないっていうようなふうな、あくまでこどもにこれを説明するのではなくて、肌感覚でこどもたちが今何を感じてるのかっていう質的調査として、お話を聞くものも報告書の中に入れてもいいかなとは思ったんですが、あくまで当事者が何を考えてるかっていう、当事者ではないんですが、卒業していなくなるので。

ただ、今行ってる学校が変わっていくことをどう思ってるかっていうのを聞く機会はあるといいかなと思います。

委員F

当時の生徒はもう卒業していますが、今の生徒ですね。

そのときにファシリテーションのところでどういうふうにしていくか、その辺はちょっといろいろと検討することは大事かなと思います。

委員C

今言われたのは、大柿高校と大柿中学校の生徒会の人たちがやったんですね。

委員F

たぶん江田島中とか能美中もあったと思うんですけど、ちょっと印象が、うちと大柿高校をしっかりと見てましたんで。結構、目の前にある、多分、市役所の所でやっていますから、結構な人数だと思うんで、多分、3校、4校いたんじゃないかなと思います。

2年ぐらい前ですね。

委員C

それはグループワークみたいな感じで皆が意見を出し合う、一つの話。

委員F

最初ちょっとファシリテーションすることができて、その後、グループ別にいろいろと、今後の5年後、10年後とか20年後を見据えてとかっていう。

委員C

ということは、その司会者の方がいて、要項に沿って。

委員F そうですね、市の方だったので。はい。企画振興課だったか、どこだったか、ちょっと忘れちゃったけど。

委員C そういうのもやっぱりやられちゃった方がいいかも知れない。いいと思います、確かに。

委員E 今は保護者の方へのアンケートですし、お子さんにアンケートどうかっていう話でしたけど、地域の人たちへのアンケートっていうようなことはないですか。

委員C 先ほどおっしゃられたのは、こういうことの一応今2年でその方向性ですね、そういうふうなことを今回保護者の方で、ある程度の方向、大体のところの方向性で決まったそのあと、地域の人っていうのは名前が出てきましたね。

事務局 保護者アンケートのあとに地域アンケートという意味ですか。

委員C いやいや。先ほどどっかの質問で事務局の方からの方向性が決まったあと地域の方にもという話があったと思うんですが。
この2年間のこの委員会で決まってその後、その地域の人と名前が挙がったと私は認識してるんですけど。

事務局 そうですね、方向性と、あとはやっぱり地域に対する説明はしていくように思います。

ただ、地域の方の御都合というか、御意見を伺うっていうよりはどちらかというと、説明をして回るということになりますけども。

その前段として、地域にもアンケートをとった方がいいというのであれば、そこは考えていかなきゃいけない。

委員E 一応、三高中学ですかね。あそこは早くから決まっていたらしくて、ずいぶんいろいろあったみたいでして。

地域の方へ、だからもう廃校って決まった後どこでもそうですよね、統合するときでも話が決まったと説明会で地域が言われるなど思ったものですからどうなのかなと。

委員C タイミングですよ。

委員長 中学校区で説明会を3回やるところに地域の方にも声掛けをしてはどうかと。アンケートに答えていただくのは保護者ですけれども、こういうふうなことも動いてますよってというふうなことで、関心のあ
る地域の方には、これらの説明を聞いてもらって、結果が出て知るん
じじゃなくて一緒に経過を周期から作るぐらいで理解を得ていくとい
う。
 どうですか。

委員G ちょっと荒れないかが心配ですよ。

委員C いろんな人いますからね。
 なかなか進行しない。

委員G 当事者は保護者だと思うんですけど、保護者よりも地域の方が田舎
なので強かったりするんで、そちらに引っ張られると、当事者がかわ
いそうなことになっちゃうんじゃないかなと思いました。

委員E 地域全員じゃなくて、地区長さんとかをまず来ていただいて。

委員J 過去の様子見よったらですね、地方の偉い人が来ちゃったら、保護
者何も言えないんですよ。

委員B なんか、僕はそれを思って、この前のミーティングのときに、こど
もたちの意見を聞くことが重要なんじゃないのかってというふうに提
案させていただいたんですけど、三高の中学校統合もおそらく20年
ぐらい話してるはずなんですよ。

 だから、確定して、この地域の人に言ったわけじゃなくて、20年
間、統合する必要があるんじゃないかっていうテーマがある中で、ず
っとこう進んできて、結果的に決定ですよって話になったのかもしれ
ないですけど、なんかそうなることどもと保護者の意見が多分すごく
重要で、そっからこういう当事者の意見があるので、地域の人どうで
すかっていう話になるし、やるのであれば、現状この学校適正化委員
会っていうものを開いて、統合について検討してますよっていうのを地
域の人にまず知ってもらわないといけない。

 そのときに三高小学校を絶対残すんだっていう、地域の強い思いが
あるのであれば、例えば自治会なのか町協さんなのかが、このこども
を誘致するためにどう動くのかって、やって成功している点が、移住
定住の観点でいうと、僕は切串の危機感とか沖美町の人たちが、もう

このままじゃまずいって言って、例えば家の価格が安く不動産屋さんが動いてくれたのかっていう意識も地域の人に持ってもらった上で、その保護者とこどもの意見を反映してもらっていかないと、単純に地域の意見で言うともう学校絶対無くすなって皆さん思われると思うんで、そういう意味で、地域の人と一緒にこの適正化を考える必要があるというのを、それが地区長さん経由とか、広報の回覧板の中にこれを入れてもらって今こういうことが検討されてますみたいなのを、ちょっとずつ周知はしておかないといけないのかなっていうふうに思います。

委員C

最初は荒れるかもしれないけどね。

やっぱりそれをちゃんとこっちが地域の方も一緒についていうふうな姿勢でいるっていうことがわかれば、まとまるところに結果がまとまると思いますので、説明会のときに案内を自治会長さんとかそういう区長さんとかにも送るということですか。

委員B

これ回覧板とかに入れるのって大変なんですか。

これ、おじいちゃんおばあちゃん、回覧板よく見るじゃないですか、これが入っていると、こんなに自分のこどものとき、自分のこどもの世代のときには、それこそ100人で1クラス1学年あったのが、これが大柿中で言うと、僕らは120人ぐらいいて、4クラスありましたけど、今もう1クラスとかになって、今まで接点がないから知らなかったけど、いざこれ配られたときに見ると、めっちゃ島の人口というか、こどもの環境がやれないっていうのを認識してもらうためには、何かそういう広報だと大変な気もするんですけど、回覧板に1個ずつ入るとかだったら。

委員E

おばあちゃんとかは回覧読まないんです。

委員B

そうなんですか。

委員L

こういうたくさんの資料は読まないです。

それでやるなら、こどもらでも分かるような、分かりやすく、理解されるように、語りかける場を設けないと。

これ知っているかなと思って理解されてないんですよ。

委員長

はい20時半も過ぎまして、予定の時間を1時間超えましたので、一応、希望というか提案として、保護者説明会を中学校等でやるとき

に、地域の人を招きできるかどうか、もう一度検討いただくっていうのと、こどもへのインタビューというか話を聞くみたいなものを今後、考えてもらって、また、次のときに具体的に話し合えるようにしていただくっていうので、地域が共通理解を作っていくっていうので、まとめさせていただきます。

遅くまでありがとうございました。

最後に今後のスケジュールについて、ご説明いただけますか。

事務局

お配りしてます次第の方をご覧くださいと思います。

第3回江田島市学校規模適正化検討委員会についてお伝えします。

第3回は先進地視察を予定しております。

場所は竹原市です。

既に御存知の方もおられるかとは思いますが、竹原市は令和3年から令和4年にかけて竹原市学校適正配置懇話会を開催し協議を重ねて、将来を見据えた私立学校の適正なあり方等についての方向性を示しております。

小学校と中学校を一体化させた義務教育学校の配置にも取り組んでおり、今後の本市の検討にも大いに参考になる部分があるかと思っています。

つきましては12月18日、木曜日、午前ということで先方の御了承をいただいております。

内容としましては竹原市の学校適正配置懇話会の経緯、竹原市の将来を見据えた私立学校の適正なあり方等、地域の保護者の理解を得るために行った取組、義務教育学校とする理由、義務教育学校の実際についてということで、こちら、直接学校の方を見さしてもらうという格好になっております。

なお視察に関しましては本市から貸切バスで行く予定としております。

もちろん直接自家用車の方で行っていただくことも可能です。

何分平日の午前中の開催ということもありますので、御参加が難しい場合もあるかと思いますが、参加に向けた御検討の方をよろしくお願いします。

詳細な時間等につきましては後日また連絡させていただきますが、一応、現段階で8時前にはこちらの能美市民センターの方を出発して、15時半前後にこちらの方に戻ってくるような計画となる見込みです。

以上で説明を終わります。

以上で全ての議題を終了します。

委員長

事務局

これより閉会行事に移ります。
閉会にあたりまして教育部長よりご挨拶させていただきます。

教育部長

本日は長時間、2時間をゆうに超えて活発な議論をしていただきまして、本当にありがとうございます。

本日は学校の視察報告、アンケートの実施内容について説明、協議させていただきました。

アンケート案の内容検討だけでもですね、皆さんに貴重な御意見をいただきまして、本当にありがとうございます。

アンケートの回答もですね、多ければ多いほど今後の貴重な検討材料になろうかと思いますので事務局の方もですね、これからも丁寧な説明に努めてまいりたいと思います。

また、今回で2回目の開催ではございますけれども、本検討委員会委員の皆さん一丸となってですね、こどもたちの未来が明るくなるように検討していただければと思います。
よろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。

以上をもちまして、「第2回江田島市学校規模適正化検討委員会」を終了します。

本日はありがとうございました。